

採択大学等名

東京大学

連携市町村名

新地町

## 取組概要(目的)

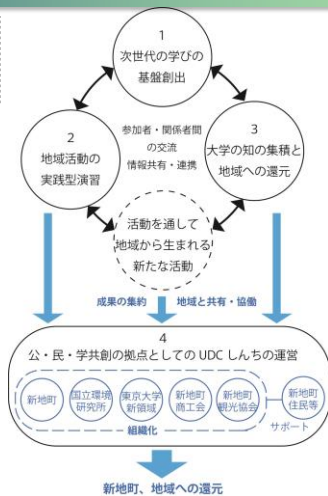
福島県新地町において、次世代の学びの基盤創出、地域活動の実践型演習、大学の知の集積と地域への還元、それらを統合した持続可能まちづくりを、現地拠点UDCLしんちを活用して公・民・学共創により実践する。復興の状況や内外の社会情勢の変化に順応し、創造的にまちづくりに貢献する復興知人材を育成する。

復興知人材

- ① 学校の地域学習に大学の知的資源を融合させ、地域への当事者意識を醸成し、高校卒業後も地域と主体的に関わることでできる中高生世代
- ② 地域の関係人口として、時間の経過とともに変化する地域の復興状況や、地域の人の心情や意向を丁寧に理解するという地域に関わる視点を習得し、それを実践することができる大学(院)生
- ③ 町の未来を見据えた地域づくりや人づくりにかかる活動を、主体的に企画ならびに実践できる地域住民

取組概要

- 1. 次世代の学びの基盤創出** 地域の関係組織や住民とともに、新地町の次世代をになう子どもたちのための学びの基盤を創出し、新地町の未来や将来像について考え、理解し、実践する場を醸成する。
- 2. 地域活動の実践型演習** 地域住民と大学(院)生が地域課題解決にともに取り組み、そこで学んだ経験をもとに、持続可能なまちづくりを内発的に行う担い手へと成長するきっかけを提供する。
- 3. 大学の知の集積と地域への還元** 研究教育成果を現地拠点UDCLしんちで集積し、地域住民に発信・公開することにより、科学的根拠にもとづいた学びとして、地域に社会還元する。
- 4. 公・民・学共創の拠点としてのUDCLしんちの運営** 現地活動や交流事業をコーディネートするとともに、地域住民の参加により地域のまちづくりの担い手の創出に向けた活動を行う。



## これまでの成果

取組1

- 年に一回、**新地町立尚英中学校**で、環境学習と連携し、大学の研究を活用した地域教育を実施。中学1年生を対象に、東大教員等が講義を行った。R4年度より、継続した学びの場として**尚英未来エネルギー倶楽部**(3年生希望者)を開設(R4・5回、R5・6回予定)。
- **新地高校**(現・相馬総合高等学校新地校舎、R5年度に閉校)において、外部講師によるまちづくりをテーマとした特別授業を実施した(R3・2回、R4・3回、R5・1回予定)。これまでの取り組みをおして、生徒たちの積極性が増し、進学や就職の情報を能動的に収集するなど、自らの将来をデザインすることに意欲的になった、ということが報告された。閉校後の地域の中での学び場づくりについても意見交換を実施。
- 大学のない浜通り地域におけるロールモデルの創出を目的として、小学6年生の総合の時間(キャリア教育)を活用し、**町立小学校**を大学院生が訪問する交流事業をR4年度より実施。



新地町交流センターでの尚英中学校環境・エネルギー学習の様子



新地高校特別授業の様子

取組2

- 地域住民との協働による課題解決のための実践的活動をテーマとした「**地域活動デザインスタジオ**」を実施(R4・R5)。地域イベント参加やワークショップ等も行い提案を作成し、実践活動を行った(R5は新地駅前フェス、テラリウム「ミニ新地」づくりツアー、海釣り公園PRアプリ)。住民との協働がR5年度はより加速し、企画の立案や振り返りの場としてまちづくり懇談会を活用。
- 「忘却に抗う」をテーマとした「**情報環境デザインスタジオ**」では、浜通り地区を対象に被災地の現状を伝えるメディアを製作(R4・R5)。その成果は国際的に高い評価を得ている。
- 目白大学の**関係人口創出プログラム**をテーマとした活動では、サイクルツーリズムや郷土食等について調査や提案を行った(R3~)。地域のイベント「遊海しんち」へも参加。地域住民の発案による、大学生の交流人口拡大のための提案があり、その具体化に向けて準備を進めている。



地域活動デザインスタジオ：新地駅前・UDCLしんち活用の提案と実践



目白大学によるサイクルツーリズムの現地調査、サイクリングマップを更新

取組3

- 「**環境システム学輪講**」で、町内設置の気象計測器(4か所)のデータ等を分析し、地域のエネルギー需要評価、再生可能エネルギーや省エネルギーの導入可能量推測を実施。堂脇大志君(修士)が土木学会第51回環境システム研究論文発表会で、優秀学生発表賞受賞。
- 「**環境システム学実地演習**」で、先行研究や事例調査等を通して、エネルギー技術の望ましい導入の仕組みや導入方法を探索し、地域のエネルギー施策を立案している。
- 新地町のまちづくりに研究成果の還元をしているほか、公開での**成果発表会**を実施し、新地町や関係者と共有を行っている。



成果報告会：意見交換の様子



新地町内に設置した気象計測器

取組4

- R5年度より、まちづくりに関心の高い住民や役場等関係者を中心に**まちづくり懇談会**を実施し(3回)、UDCLしんちのあり方、具体的な活動について意見交換を行っている。
- R4年度よりプロジェクト専従職員を雇用したことにより関係諸機関との連携が加速し、R5年10月より雇用した現地職員は地域コミュニティとの潤滑油としての役割を果たしている。R6年2月に組織の立ち上げ、自立的な活動の開始を予定。



「遊海しんち」への参加の様子



まちづくり懇談会@UDCLしんちの様子

## 事業終了時点の成果及びその後の見通し

まちづくり拠点UDCLしんちの機能を最大限に活用することで、本事業により開始されたテーマごとのプロジェクトが、テーマ間の相互作用によって継続的な改善を繰り返す。「持続可能なまちづくり」に関して新地町で行ってきた様々な活動の進め方やその成果を他地域等へ適用することの可能性を高めていく。

**現地拠点** 現地の活動拠点UDCLしんちは、公・民・学連携によるまちづくり拠点として、東京大学大学院新領域創成科学研究科の他に、三者協定の主体である新地町と国立環境研究所、さらに新地町商工会や新地町観光協会が参加する運営組織が活動を継続する予定である。活動費については、UDCLしんちに参画する主体間による共同での獲得にむけた取組が昨年度より開始され、自走への準備が進められている。

**研究教育活動** 本事業で実施する教育は、正規の科目として実施するため、その基盤的経費は研究科の教育予算から支弁、新地町及び浜通り地域を対象として演習を継続的に実施する。また、すでに各教員が獲得した様々な研究費による研究活動が行われており、大学院生もそれら研究に参画することで高度人材となるための訓練を積み、今後も同様な研究費による活動を継続する予定である。